

新日鉄のチタン薄板が羽田空港新滑走路に大量採用

新日鉄は、現在建設中の羽田空港D滑走路の棧橋部に用いられるチタンカバープレート（新日鉄エンジニアリング（株）が開発した防食・足場機能のある橋梁外装材製品）向けにチタン薄板を大量受注した。本工事に使用されるチタン薄板は約1,000 tで、建設分野でこれほどのチタンが大量に採用されるのは初めてのこと。

このカバープレートは、チタン薄板と塗装鋼板の間に不燃ウレタン芯材をサンドイッチしたパネル状のもので、滑走路棧橋部の下面・側面に設置される。今回このカ

バープレートの外面にチタンを適用することで、海上という高腐食環境においても、耐用年数100年を標榜する滑走路棧橋部の長期防食を実現し、メンテナンス費用の大幅削減が可能となる。今後は一般的な道路橋の予防保全、ライフサイクルコスト最小化策としての活用も期待される。

当社は、高耐食性というチタンが本来持つ特長を發揮できる用途・分野を開拓することで、さらにチタン需要の拡大に努めていく。



チタンカバープレート



新滑走路棧橋部製作現場



チタンカバープレートが採用された新滑走路棧橋部

<受注物件概要>

工事名：東京国際空港D滑走路建設外工事
 施工面積：570,000㎡
 チタン使用量：約1,000 t
 運用開始：2010年12月

お問い合わせ先
 広報センター TEL 03-3275-5021

新日鉄エンジニアリング（株）とトピー工業（株） 橋梁・鋼構造事業の事業統合について

新日鉄エンジニアリング（株）とトピー工業（株）は、2010年4月1日をめどに橋梁・鋼構造事業を営む両社の連結子会社である日鉄ブリッジ（株）およびトピー鉄構（株）の事業統合に向けた検討を開始した。

新日鉄とトピー工業は、2008年9月に相互提携の一層の強化に合意し、厳しい市場環境の中、個別連携施策として新日鉄エンジニアリングおよびトピー工業が保有する橋梁・鋼構造事業会社の競争力強化に関して検討してきた。橋梁市場の転換期の中でも安定的に収益を確保することができる企業体質

の構築を目指し、このたび日鉄ブリッジとトピー鉄構の事業統合に向けた検討を開始することとした。

具体的には以下の検討を行う。

①両社の有する生産拠点（日鉄ブリッジ若松工場、トピー鉄構豊橋工場）の特徴を最大限に活用した効率的な生産体制の構築による収益力強化。

②保有する技術者の母集団拡大を活かした技術力強化。

③新日鉄グループの両社が持つ鋼材技術力を活用した商品開発力の強化。

④その他統合メリットの享受による収益力強化。

現在新日鉄エンジニアリングで行っている海外橋梁・ケーブル、鋼構造商品ならびに海洋鋼構造物加工の各事業を日鉄ブリッジに移管した上で、日鉄ブリッジおよびトピー鉄構を統合する。出資比率については新日鉄エンジニアリングが過半を占める。また、現在新日鉄エンジニアリングならびに日鉄ブリッジが推進している三菱重工鉄構エンジニアリング

（株）との事業提携については、新会社が承継し、今後深化・発展を図っていくこととする。

新会社は、公正かつ透明な経営を基本に、橋梁を中核とした鋼構造事業において、社会資本整備におけるさまざまなニーズに的確に対応できる、業界トップクラスの競争力を有する鋼構造総合エンジニアリング会社を目指していく。

お問い合わせ先
 新日鉄エンジニアリング（株） 総務部広報室 TEL 03-3275-6030

新日鉄マテリアルズ(株)がパワーデバイス用炭化ケイ素単結晶ウェハの販売を開始

新日鉄技術開発本部先端技術研究所で取り組んできた、炭化ケイ素(以下、SiC)単結晶ウェハの開発成果を踏まえ、4月1日より、グループ会社である新日鉄マテリアルズ(株)が同ウェハの製造・販売を開始した。

地球温暖化防止対策が重要視される中、SiCウェハは、自動車(電気・ハイブリッド)、太陽光発電、情報機器、家電など、高効率な電力交換技術(パワーエレクトロニクス)を支える半導体デバイス(パワーデバイス)向け材料として、従来のシリコン(Si)単結晶ウェハをはるかに上回る優れた特性を有する。経済産業省が策定した「Cool-Earthエネルギー革新技術計画(2008年3月)」

などでも革新的技術の一つとして取り上げられ、注目されている。主な特性と期待される効果としては以下の通り。

①耐電圧性に優れ、デバイスの電力損失を10分の1に低減し、高効率・省エネルギー化を実現。

②耐熱性に優れ、デバイスの冷却が不要となり、機器の小型化・薄型化が可能。

シリコンの性能限界を超えるSiC単結晶ウェハは、パワーエレクトロニクスの活用分野の拡大を通じ、あらゆる分野の省エネルギー化を推進する可能性を秘めている。例えば、国内全消費電力の約6割を占めるモーターでは、インバーター(直流電力から交流電力を生成する電力交換機器)の導

入で大きな省エネルギー化が図られている。しかし、高電圧、高温で使用される産業用の大型モーターなどでは導入が進まず、インバーターが導入されている割合はモーター全体の約2割(消費電力ベース)に過ぎない。SiC単結晶ウェハの優れた特性によってインバーターの高性能化が実現されることにより、大型モーターのようなパワーエレクトロニクスが活用されていない分野での導入促進も期待できる。

新日鉄では、世界最高品質レベルの4インチ(100mm)ウェハの開発に国内で初めて



SiC単結晶ウェハ

成功するなど、SiC単結晶ウェハの研究開発で実績をあげてきたが、今後は新日鉄グループ全体として、SiC単結晶ウェハを広く供給していくことで、多くの領域での省エネルギー化を推進し、低炭素社会の実現に貢献していく。

お問い合わせ先
広報センター TEL 03-3275-5021

新日鉄住金ステンレス(株)のクロム系ステンレス異形鉄筋が新経団連会館のGRC外装パネルに採用

新日鉄住金ステンレス(株)のクロム系ステンレス異形鉄筋「NSSD®410」が、4月1日に竣工した新経団連会館の大手町地区第一次再開発事業C棟のGRC(※)パネル(外装材)の補強鋼材に使用された。

海外では鉄筋腐食による鉄筋コンクリート構造物の劣化・損傷を防止するためステンレス鉄筋の利用が進んでいるが、同社では、性能・コストの両面で優れるクロム系ステンレス異形鉄筋(NSSD®410)を提案し、国内での普及を図っている。クロム系ステンレス異形鉄筋は、低アルカリ性のコンクリート中でも安定的な耐久性を発揮し、防食のための塗装処理を必要とせず、現場での施工性にも優れていることから今回のGRCパネルに採用された。同製品は昨年3月に制定された「鉄筋コンクリート用ステンレス異形棒鋼」(JIS G

4322)を満足するとともに、建築基準法37条第2号の国土交通省大臣認定も取得している。

クロム系ステンレス異形鉄筋を各種プレキャストコンクリート部材に適用することにより、耐久性を確保しつつ鉄筋を覆うコンクリートの厚さ(被り厚)を低減でき、部材の軽量・コンパクト化が可能となる。建築外装用のみならず構造躯体にも適用することで施工性の向上、居住スペースの拡大を図ることができ、さらに塩害環境の厳しい土木構造物においても被り厚に頼らず、耐久性を向上させることが可能となる。

新日鉄住金ステンレスは、ステンレス鉄筋を活用した先導的な技術開発、普及活動を通じて鉄筋コンクリート造の信頼性を高めるとともに、コンクリート構造物の新たな価値の創造に貢献していく。



<物件概要>

物件名：大手町地区第一次再開発事業C棟
建物規模：地上23階、地下4階 鉄骨造(一部鉄筋鉄骨コンクリート造)
ステンレス鉄筋適用部位：建物外装GRCパネル内の補強部材(脱落防止)
GRCパネル製造：旭ビルウォール(株)
ステンレス鉄筋の種類：クロム系ステンレス異形鉄筋「NSSD®410」
ステンレス鉄筋使用量(サイズ)：約60 t (D10)

※GRC(Glassfiber Reinforced Concrete)：ガラス繊維補強コンクリート

お問い合わせ先
新日鉄住金ステンレス(株) 企画部 TEL 03-3276-4848

堺ブレイザーズ 2008/2009 Vプレミアリーグ準優勝

4月12日、東京体育館において男子バレーボールの2008/2009 Vプレミアリーグ優勝決定戦が行われ、堺ブレイザーズは東レアローズに敗れて準優勝となった。

堺ブレイザーズはレギュラーシーズンを3位で終えて、上位4チームが戦うセミファイナルに進出。2勝1敗で1位通過しファイナルを迎えたが、優勝まであと一歩及ばず、東レアローズにセットカウント0-3で敗れた。

試合後Vプレミアリーグの個人賞の表彰が行われ、この大会を最後に引退する朝長孝介選手(北京オリンピック代表)が、準優勝に最も貢献した選手に贈られる「敢闘賞」を受賞。今後は、堺ブレイザーズを退社し教員になる。朝長選手は、「バレーを通じて、目標に向かって一つ一つ努力を積み重ねていくことの大切さを学びました。生徒たちにもこの気持ちを伝えたいと思います」とコメントした。

また個人賞として、ポジション別に最も活躍した選手に贈られる「ベスト6賞」をエンダキ・エムブレイ選手が、「ベストリベロ賞」を井上裕介選手が受賞した(ともに初受賞)。Vリーグ(1994/1995シーズン以降)試合出場が10シーズン以上で230試合以上の選手に贈られる「長期活躍功労賞」を伊藤信博選手が受賞した。

堺ブレイザーズは、4月25～26日に開催された、日韓のVリーグ1・2位による親善試合「2009日韓Vリーグトップマッチ」(北九州市立総合体育館)に出場したほか、5月1～6日

に開催される「第58回黒鷲旗全日本男女選抜バレーボール大会」(大阪府立体育会館)にも出場する。

中垣内監督は「第1セットを取れるチャンスでミスが出たことで試合の流れが決まってしまった。攻撃力のポテンシャルには自信があったが、ファイナルではこごぞという場面での集中力が相手より劣っていた」と試合を振り返った。今シーズンの総括と今後の課題については、「昨シーズンは4位、今シーズンは2位とステップアップしてきた。選手の怪我也あり、戦力が限られる中で準優勝という成績を残せたことは評価できると思う。今後は、“こごぞで力を出し切る”という課題の克服に向けて練習を積んでいく」とコメントした。

中垣内祐一監督が勇退

5月に開催される第58回黒鷲旗全日本男女選抜バレーボール大会を最後に、中垣内監督が勇退することが決まった。後任には酒井新悟コーチが就任する。

中垣内監督は1990年にブレイザーズの前身である新日鉄バレーボール部に入団。2004年に現役を引退した後、監督として2004/2005シーズンから5年間ブレイザーズを指揮。就任2年目の2005/2006シーズンにはVリーグ優勝に導くなどの功績を上げた。今後はJOCスポーツ指導者海外研究員として、2年間海外へ派遣される予定。

[ファイナル 試合結果]

堺ブレイザーズ 0 - 3 東レアローズ
(27 - 29)
(20 - 25)
(23 - 25)

堺ブレイザーズ HP URL <http://www.blazers.gr.jp/town/index.shtml>

<プロフィール>

氏名: 中垣内 祐一 (なかがいち ゆういち)	経歴:
生年月日: 1967年11月2日	1989年 全日本男子代表初選出
出身地: 福井県福井市	ワールドカップ出場
所属: 県立藤島高校→筑波大学→新日鉄	1992年 バルセロナ五輪出場(6位入賞)
	2000年 全日本代表引退
受賞歴:	2004年 堺ブレイザーズ監督就任
1990年 第24回日本リーグ 最高殊勲選手	
猛打賞 新人賞 ベスト6	
以降多数受賞	



選手に指示を出す中垣内監督



この大会を最後に引退する朝長選手



「ベスト6賞」を受賞したエンダキ・エムブレイ選手



「ベストリベロ賞」を受賞した井上裕介選手



「長期活躍功労賞」を受賞した伊藤信博選手



試合後、観客、応援団に挨拶をするブレイザーズスタッフ、選手たち

新日鉄広畑柔道部の西山選手と高橋選手が全日本選抜体重別選手権大会で優勝

4月5日、福岡国際センターにて全日本選抜体重別選手権大会が行われ、当社柔道部の西山将士選手（90kg級）と高橋和彦選手（100kg超級）がそれぞれの階級で優勝した。本大会は、各階級から国内上位8名を選抜し、日本一を決

める大会。当社柔道部としては、優勝は8年ぶり、2階級制覇は14年ぶりの快挙。当社柔道部からは前記2選手のほかに、吉永慎也選手（81kg級）と斉藤俊選手（90kg級）も出場した。

西山将士選手



出場するからには優勝するという強い気持ちで大会に臨みました。4月29日に行われる全日本柔道選手権大会（※）でも自分のやるべきことをやって結果を出したいと思います。また国際大会でも勝って、ワンステップ上に行けるように努力していきます。



（※）全日本柔道選手権大会：日本武道館で行われるトーナメント戦。当社柔道部からは西山、吉永、斉藤選手が出場予定。

高橋和彦選手



まずは初戦を突破しようという気持ちで、常に冷静さを保って相手を見ることを心がけて戦いました。今後は6月に行われる第59回全日本実業柔道団体対抗大会での勝利に向けて練習していきます。



岡泉 茂監督

国内上位選手による選抜大会という重要な試合で、西山、高橋両選手が優勝という最高の結果を出せたことを嬉しく思います。第59回全日本実業柔道団体対抗大会は、当社柔道部として30回目の優勝という節目をかけた団体戦であり、優勝に向けてチームをまとめていきたいと思っています。

詳細は新日鉄広畑柔道部のHPをご覧ください。
URL <http://www.nsc.co.jp/hirohata/judo/>

紀尾井ホール（財）新日鉄文化財団

5月 主催・共催公演から <http://www.kioi-hall.or.jp>

2日<完売> Mitsubishi Corporation Presents

マリア・ジョアン・ピリス ピアノ・リサイタル
心で綾なすベートーヴェン
出演：マリア・ジョアン・ピリス (Pf)、パヴェル・ゴムツィアコフ (Vc)
曲目：【オール・ベートーヴェン・プログラム】
ピアノ・ソナタ第17番ニ短調「テンペスト」、
チェロ・ソナタ第3番イ長調 ほか

15、16日 紀尾井シンフォニエッタ東京 第69回定期演奏会
出演：ジャン＝ピエール・ヴァレーズ（指揮）、
紀尾井シンフォニエッタ東京（Orch）
曲目：ハイドン 交響曲第85番変ロ長調「王妃」、
オネゲル 交響詩「夏の牧歌」ほか

ヴィオラスペース2009 vol.18 第1回東京国際ヴィオラコンクールを開催

日本初となるヴィオラ単独の国際コンクール「第1回東京国際ヴィオラコンクール」が紀尾井ホールで開催される。このコンクールは、審査委員長を務めるヴィオラ奏者の今井信子氏の提唱により、1992年に始まったヴィオラの祭典

「ヴィオラスペース」の一環として行われるもので、今後3年に1度開催される。5月23～31日までの9日間、コンクール審査、ワークショップや、審査委員、アドバイザー、入賞者によるコンサートなどが行われる。

コンクール審査（一般公開）およびワークショップ・コンサートスケジュール

23、24日 第1次審査	28日 ワークショップ②
25日 ワークショップ①	29日 最終審査①
26、27日 第2次審査	30日 最終審査②

25日 ガラ・コンサート 第一夜「無伴奏からアンサンブルまで」
出演：今井信子、菅沼準二、店村眞積、T.リーブル、G.ノックス (Va) ほか
曲目：バッハ ブランデンブルグ協奏曲第6番、
シューベルト アルペッジョーネソナタ イ短調（ヴィオラ版）ほか

29日 ガラ・コンサート 第二夜「ソナタと協奏曲」
出演：K.カシュカシアン、川崎雅夫、川本嘉子、馬淵昌子 (Va)、堤剛 (Vc)、
原田幸一郎（指揮）桐朋学園オーケストラ ほか
曲目：ブルッフ ロマンズ、シューベルト アルペッジョーネソナタ イ短調（チェロ版）ほか

31日 入賞記念コンサート
出演：第1回東京国際ヴィオラコンクール第1位、第2位、第3位受賞者 ほか
曲目：当日発表

審査委員
今井信子（審査委員長）、キム・カシュカシアン、
ガス・ノックス、トーマス・リーブル、
ジャン・シュレム、店村眞積、堤剛

主 催：東京国際ヴィオラコンクール実行委員会
共 催：（財）新日鉄文化財団、（株）テレビ朝日
後 援：朝日新聞社
特別協賛：NTTファイナンス（株）
協 賛：NTTコムウェア（株）／
中日本高速道路（株）
オフィシャル・エアライン：オーストリア航空
協 力：上野学園大学／東京藝術大学音楽学部／
桐朋学園大学／新宿ワシントンホテル
制作：テレビマンユニオン

お問い合わせ・チケットのお申し込み先：紀尾井ホールチケットセンター TEL 03-3237-0061（受付 10時～18時 日・祝休）